



社会医療法人若弘会 若草第一病院  
消化器科 副院長 岩田 恵典 (いわた よしのり)

～内視鏡センターの今後の展望について～



登録医ならびに近隣医療機関の皆様には平素より格段のご高配を賜り有難うございます。

若草第一病院消化器内科では、医師総勢10人体制で、最新機器が導入され消化器内科で対応するあらゆる疾患に対して治療可能となりました。内視鏡室のスタッフは看護師 6名、臨床工学技士 3名（うち内視鏡技師 7名）と充実しており、胃十二指腸潰瘍や食道胃静脈瘤等の消化管出血患者や、胆管炎や膵炎等の緊急ドレナージ治療を必要とする患者に対しても、24時間365日迅速に対応しております。

本年5月に内視鏡センターの改修工事を行い、検査室や待機スペースが広がったため、より快適に検査治療を受けて頂けるようになりました。消化管領域においては、食道、胃、大腸いずれの部位に対しても迅速に内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を行っています。原因不明の消化管出血患者に対しては、カプセル内視鏡や小腸内視鏡を導入し、原因の究明に努めています。また、炎症性腸疾患に対しても、最近注目されている生物学的製剤も導入し、多数の患者様に対応しています。



# 地域連携だより

NO.070

発行:2023年10月

地域連携課

TEL:072-988-1409

FAX:072-982-5425

胆膵領域においては、内視鏡的胆管膵管造影（ERCP）や超音波内視鏡（EUS）を積極的に行い、特に最近の進歩の著しいEUSでは、癌の早期発見目的でのスクリーニングEUSから、診断目的の穿刺吸引法（FNA）や治療内視鏡（ドレナージ等）まで幅広く対応しています。従来は治療困難とされていた胃術後患者の総胆管結石等に対するERCPも、小腸内視鏡を使用して積極的に行っています。巨大な総胆管結石で内視鏡治療が困難な症例に対しても、2022年より経口胆道鏡であるspyglassを導入したため、ESWLやEUS下治療も併用することで、ほぼ全ての胆管結石や膵石症例で外科的治療に移行することなく対応可能となりました。

消化器疾患の全ての領域において、消化器外科と密に連携して、それぞれの患者様に対して最適の医療を提供できるように心がけてまいりますので、何卒よろしく願いいたします。

